

九州北部地方（山口県を含む）の観測地点の全てで 3月の月平均気温が統計開始以降、最高となりました

○3月の九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温は、統計開始以降、最も高くなりました。

○九州北部地方（山口県を含む）の観測地点の全てで、3月の月平均気温が統計開始以降、最も高くなりました。

1. 3月の九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温平年差[※]は、統計開始（1946年）以降、最も高くなりました。

	2021年	これまでの1位 2002年	これまでの2位 2020年
3月の 平年差 (°C)	+3.1	+1.9	+1.7

地域平均気温平年差の経過等は、別紙1を参照してください。

2. 九州北部地方（山口県を含む）の統計期間10年以上の観測地点の全てで、3月の月平均気温が統計開始以降、最も高くなりました（別紙2参照）。

3. 記録的高温となった要因は、寒気の南下が弱く暖かい空気に覆われやすかったためとみられます。

また、背景として地球温暖化の影響も考えられます（別紙3参照）。

※ 地域平均気温平年差は、いつもの年（平年値：1981～2010年の平均）と比べてどのくらい暑い・寒いかを地域全体でみるものです。九州北部地方（山口県を含む）では、16地点における気温の平年差を平均して算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部

観測値について：防災調査課（蛇嶋） 092-725-3614

要因について：地球環境・海洋課（川口） 092-725-3613

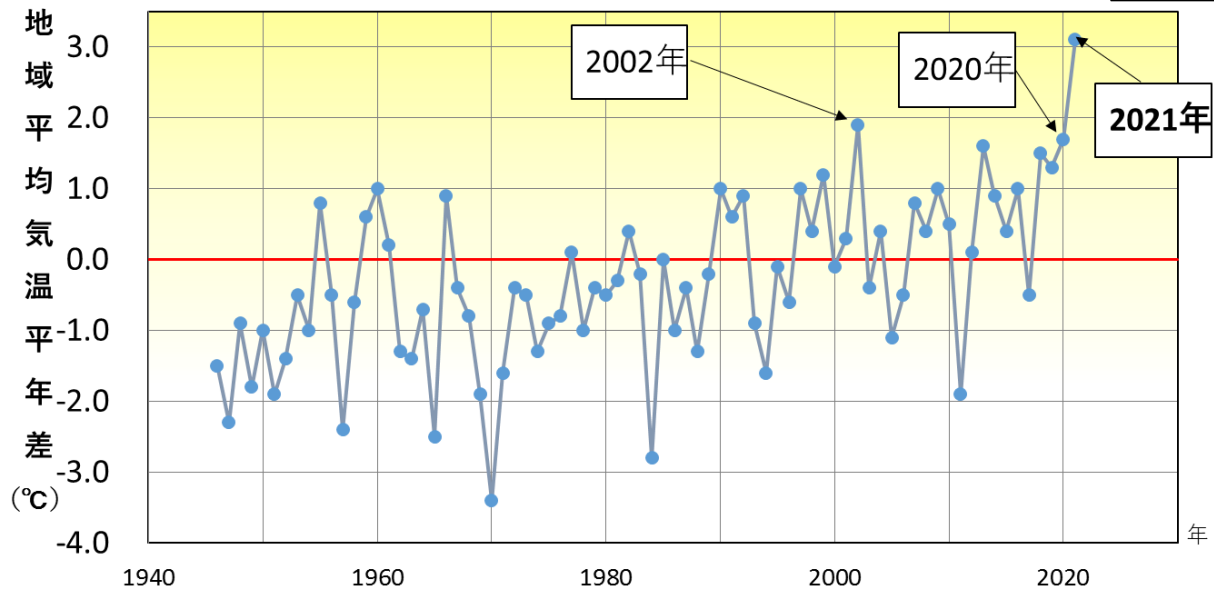


図 1 九州北部地方（山口県を含む）の3月の地域平均気温平年差*の経年変化
（統計期間：1946年～2021年）

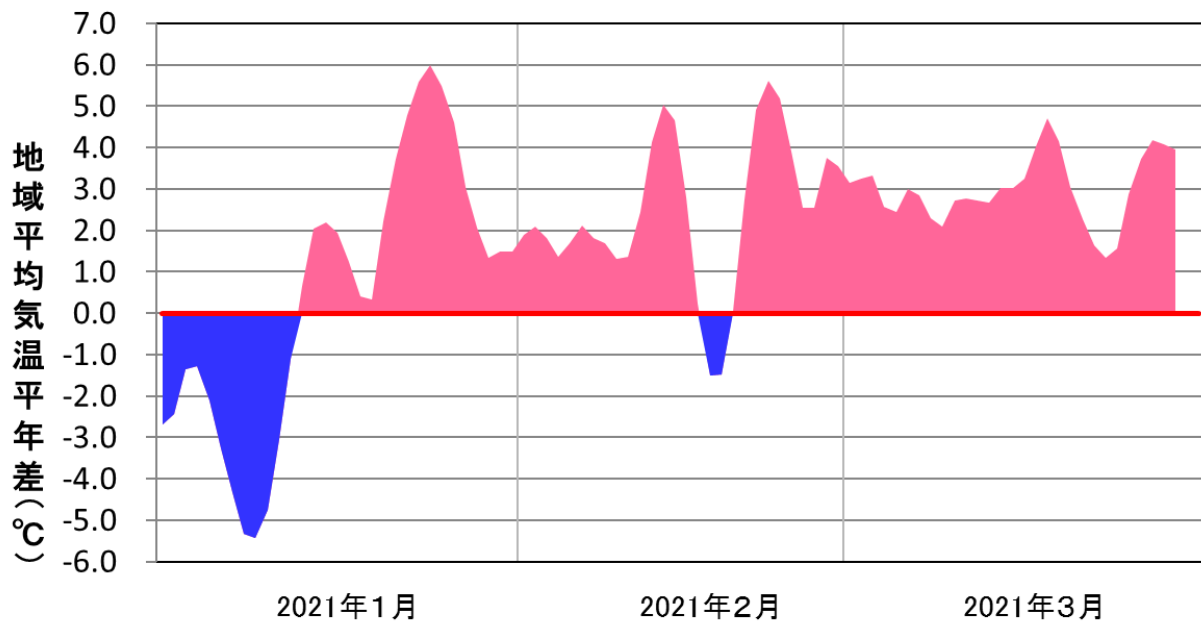


図 2 九州北部地方（山口県を含む）の地域平均気温平年差*の時系列図（5日移動平均値）
（2021年1月～3月）

※地域平均気温平年差は、いつもの年（平年値：1981～2010年の平均）と比べてどのくらい暑い・寒いかを地域全体でみるものです。九州北部地方（山口県を含む）では、16地点における気温の平年差を平均して算出しています。

表 九州北部地方（山口県を含む）の3月の月平均気温の高い方からの1位を更新した観測地点

県	観測地点	平均気温 (°C)	平年値※ (°C)	平年差 (°C)	これまでの1位 (°C (年))	統計開始年
山口県	須佐	10.2	7.9	2.3	10.0(2002)	1977
	萩*	11.5	8.6	2.9	11.0(2002)	1949
	油谷	11.5	8.9	2.6	11.5(2002)	1977
	徳佐	9.3	5.9	3.4	8.1(2002)	1977
	秋吉台	10.3	7.0	3.3	9.2(2002)	1977
	広瀬	10.1	6.8	3.3	9.0(2020)	1976
	豊田	9.9	7.1	2.8	9.2(2002)	1977
	山口*	11.7	8.5	3.2	10.6(2002)	1967
	岩国	10.7	7.7	3.0	10.0(2020)	1977
	防府	12.0	8.7	3.3	10.7(2002)	1977
	下松	11.9	8.2	3.7	10.7(2020)	1977
	玖珂	10.6	7.7	2.9	9.6(2002)	1977
	下関*	12.6	9.9	2.7	12.2(2002)	1883
	宇部	11.7	9.2	2.5	10.9(2002)	2002
	柳井	11.3	8.7	2.6	10.6(2002)	1977
安下庄	11.3	8.9	2.4	10.9(2002)	1977	
福岡県	宗像	11.8	8.9	2.9	11.1(2002)	1977
	八幡	12.5	9.5	3.0	11.7(2002)	1977
	空港北町	11.9			11.1(2020)	2006
	行橋	11.7	8.7	3.0	11.1(2002)	1977
	飯塚*	12.0	9.0	3.0	11.1(2002)	1936
	前原	12.4	9.5	2.9	11.6(2020)	1977
	福岡*	13.5	10.4	3.1	12.5(2002)	1890
	博多	12.9	10.3	2.6	11.8(2020)	2003
	太宰府	12.7	9.3	3.4	11.5(2020)	1977
	添田	11.3	8.4	2.9	10.7(2002)	1977
	朝倉	12.2	9.0	3.2	11.0(2002)	1977
	久留米	13.4	9.7	3.7	11.8(2020)	1977
	黒木	11.9	8.7	3.2	10.4(2013)	1977
大牟田	12.8	9.8	3.0	11.9(2002)	1977	
佐賀県	唐津	12.8			11.6(2020)	2010
	伊万里	12.3	9.2	3.1	11.2(2002)	1977
	佐賀*	13.4	9.9	3.5	11.9(2020)	1891
	嬉野	11.7	8.5	3.2	10.4(2013)	1977
	白石	12.3	9.3	3.0	11.1(2002)	1977
	川副	12.1	9.4	2.7	10.9(2020)	2003
長崎県	鱒浦	12.1	9.7	2.4	11.3(2020)	1996
	厳原*	12.3	9.7	2.6	11.8(2002)	1887
	美津島	12.1	9.3	2.8	11.3(2020)	2003
	芦辺	12.0	9.4	2.6	11.4(2002)	1977
	石田	12.7	10.2	2.5	11.8(2020)	2003
	平戸*	12.8	9.9	2.9	11.8(2002)	1940
	松浦	12.7			11.5(2020)	2011
	佐世保*	13.7	10.7	3.0	12.2(2020)	1947

県	観測地点	平均気温 (°C)	平年値※ (°C)	平年差 (°C)	これまでの1位 (°C (年))	統計開始年
長崎県	大村	13.1	10.6	2.5	12.0(2002)	1996
	長崎*	13.9	10.9	3.0	12.7(2002)	1879
	雲仙岳	9.7	6.6	3.1	8.7(1992)	1924
	島原	13.6			12.0(2013)	2006
	福江*	13.6	10.7	2.9	12.2(2002)	1963
	上大津	13.3	10.3	3.0	11.8(2018)	2003
	口之津	13.4	10.8	2.6	12.3(2009)	1976
熊本県	鹿北	11.6	8.2	3.4	10.3(1992)	1977
	南小国	10.0	6.5	3.5	8.6(2002)	1977
	岱明	13.1	9.7	3.4	11.7(2002)	1977
	菊池	12.9	9.3	3.6	11.1(2018)	1977
	阿蘇乙姫	9.8	6.5	3.3	8.8(2002)	1978
	熊本*	13.9	10.6	3.3	12.4(2002)	1890
	益城	12.5	9.1	3.4	11.3(2018)	2003
	高森	10.2	6.9	3.3	8.8(2018)	1977
	三角	13.4	10.4	3.0	12.3(2002)	1977
	甲佐	13.1	9.8	3.3	11.8(2018)	1977
	松島	13.3	10.2	3.1	12.0(2002)	1977
	本渡	12.7	10.0	2.7	11.7(2002)	1977
	八代	13.5	10.5	3.0	12.3(2013)	1977
	水俣	13.6	10.7	2.9	12.2(2018)	1977
	人吉*	13.0	9.5	3.5	11.7(1992)	1943
上	12.7	9.2	3.5	11.7(1992)	1977	
牛深*	15.0	12.0	3.0	13.6(2018)	1950	
大分県	国見	12.0	9.0	3.0	11.1(2002)	1977
	中津	11.8			10.6(2020)	2011
	豊後高田	11.7	8.7	3.0	10.9(2002)	1977
	院内	11.2	7.9	3.3	10.2(2002)	1977
	杵築	11.9	8.6	3.3	10.9(2002)	1978
	武蔵	11.5	9.2	2.3	11.0(2020)	2003
	日田*	12.5	8.9	3.6	11.0(2002)	1943
	玖珠	10.2	7.2	3.0	9.7(2002)	1977
	湯布院	9.6	6.5	3.1	9.1(2002)	1977
	大分*	12.6	9.7	2.9	12.2(2002)	1887
	犬飼	11.5	8.5	3.0	10.9(2002)	1977
	竹田	11.1	8.0	3.1	10.4(2002)	1977
	佐伯	13.0	10.2	2.8	12.3(2002)	1977
	宇目	11.0	7.9	3.1	10.0(2002)	1977
蒲江	14.4	11.1	3.3	13.2(2002)	1977	

注1：統計期間が10年以上ある観測所を対象としています。

注2：*付の16地点は地域平均の計算に用いています。

注3：平年値は1981年から2010年の平均です。網掛け部分は平年値がありません。

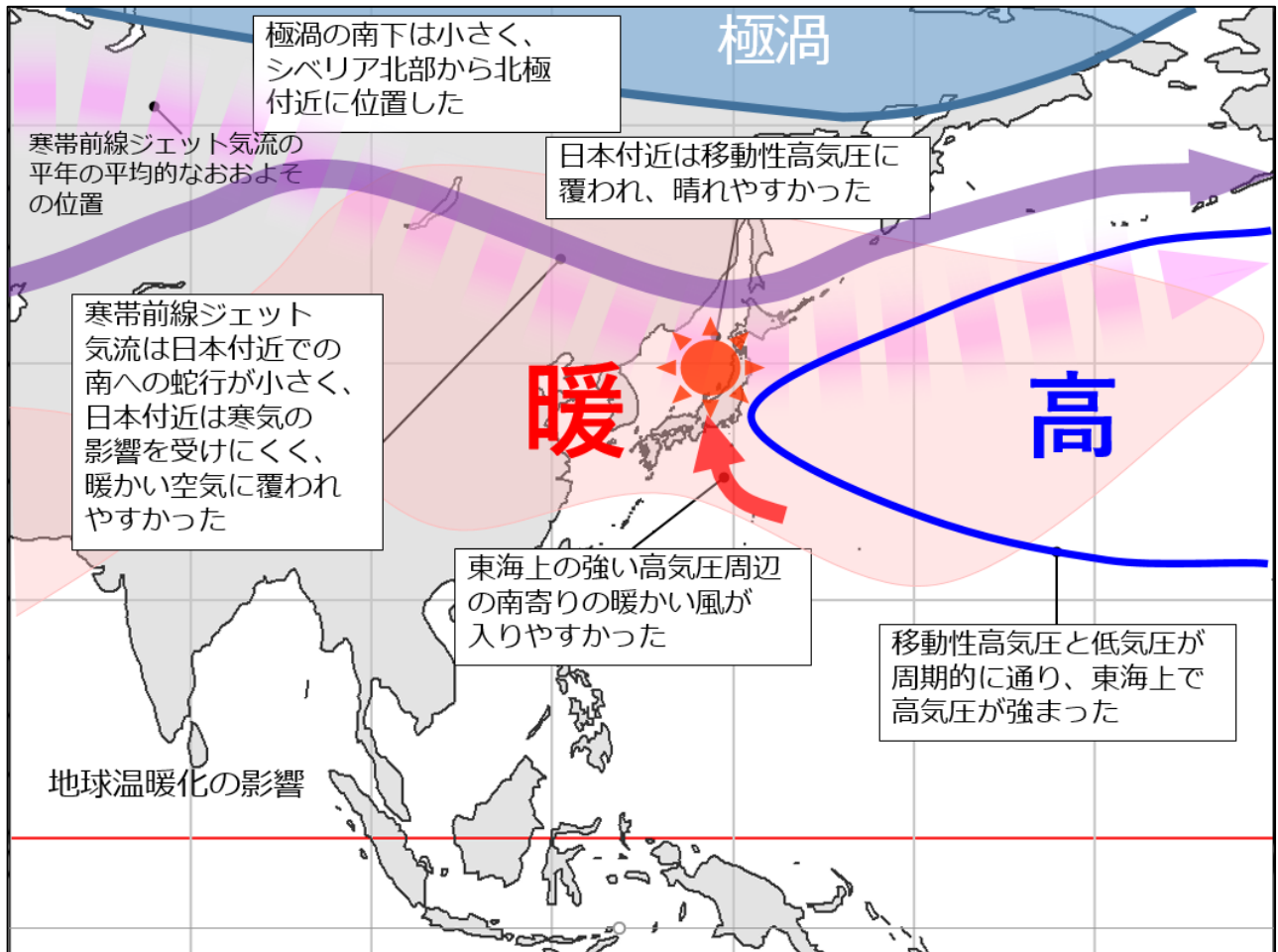


図3 平均的な大気の流れの模式図

※図のピンクで示した領域は上空約 1500 メートルで平年より気温が 2℃以上高いことを示す。

- 極渦の南下は小さく、シベリア北部から北極付近に位置していました。
- 寒帯前線ジェット気流は、日本付近での南への蛇行が小さかったことから、寒気の南下が弱く、暖かい空気に覆われやすくなりました。
- 高気圧は日本の東海上で強まりやすくなったことから、高気圧周辺の南寄りの暖かい風が入りやすくなりました。
- 日本付近は移動性高気圧に覆われやすく晴れることが多かったことも、高温に影響しているとみられます。
- 背景として地球温暖化の影響も考えられます。